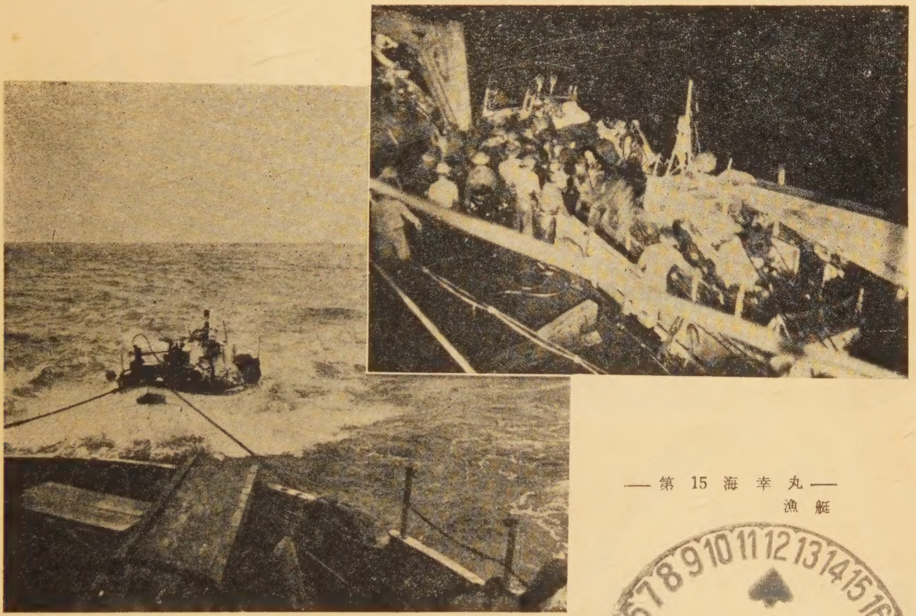
鮪漁業 第四十九号 昭和三十三年五月十日発行 (毎月一回十日発行)
昭和三十一年二月二十三日 第三種郵便物認可

Sept. 1957 operations

鮪漁業

Tuna Fishing



—第 15 海 幸 丸—
漁 艇

JUN 1958
LIBRARY
POFI
FISH & WILDLIFE SERVICE

鮪 漁 業 研 究 会

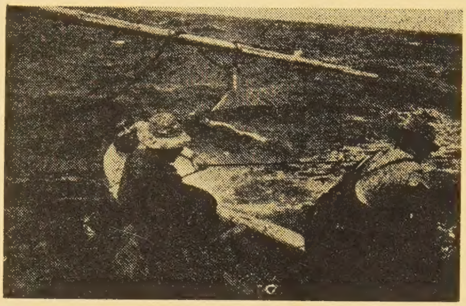
THE INVESTIGATIVE SOCIETY OF TUNAFISHERY JAPAN

No. 49. 1958
May 10, 1958

倉敷ビニロン

クレモナ 万漁

鮪延縄◆ロープ◆漁網



くさらない
使いやすい
値も安い

倉敷レイヨン株式会社

本　社　大阪市北区梅田2（第一生命ビル）
東京事務所　東京都中央区日本橋室町2の4

JRC 漁船用無線装置

常に新しい研究と最高技術に輝く

定評ある送信機
優秀な受信機
新設計の船内拡声装置
超小型魚群探知機

日本の誇り
国産レーダー
漁場の測定に
ロラン受信機
安全航海に
気象模写受信装置

本社・工場　東京都三鷹市上連雀930
東京営業所　東京都渋谷区千駄ヶ谷4の693
大阪支社　大阪市北区堂島中1の22

JRC
日本無線

―目　次―

鮪漁船紹介　　第3 東水丸　　第18 光洋丸

鮪漁場図（昭和32年9月操業）

三崎他二港の水揚調査を主体とする遠洋鮪漁業の考察（昭和32年9月現況）……………………… 1

1. 調査の概況……………………………………………………………………………… 1

2. 漁況の概要……………………………………………………………………………… 1

3. 各海区の漁況…………………………………………………………………………… 2

月別，漁場別，鮪類漁獲調査表（昭和32年9月操業分）別表 1 ……………………………………10

月別，漁場別，鮪類体長組成表（昭和32年9月操業分）別表 2 ……………………………………14

鮪類標識放流について ……………………………………………………………………………… 9

セレベス東岸航行禁止区域設定について ……………………………………………………………20

大西洋産カジキ二種について ………………………………………………会員　中込　淳……21

＝新漁具紹介＝　丸石式ゴムローラー …………………………………会員　池田　義明……25

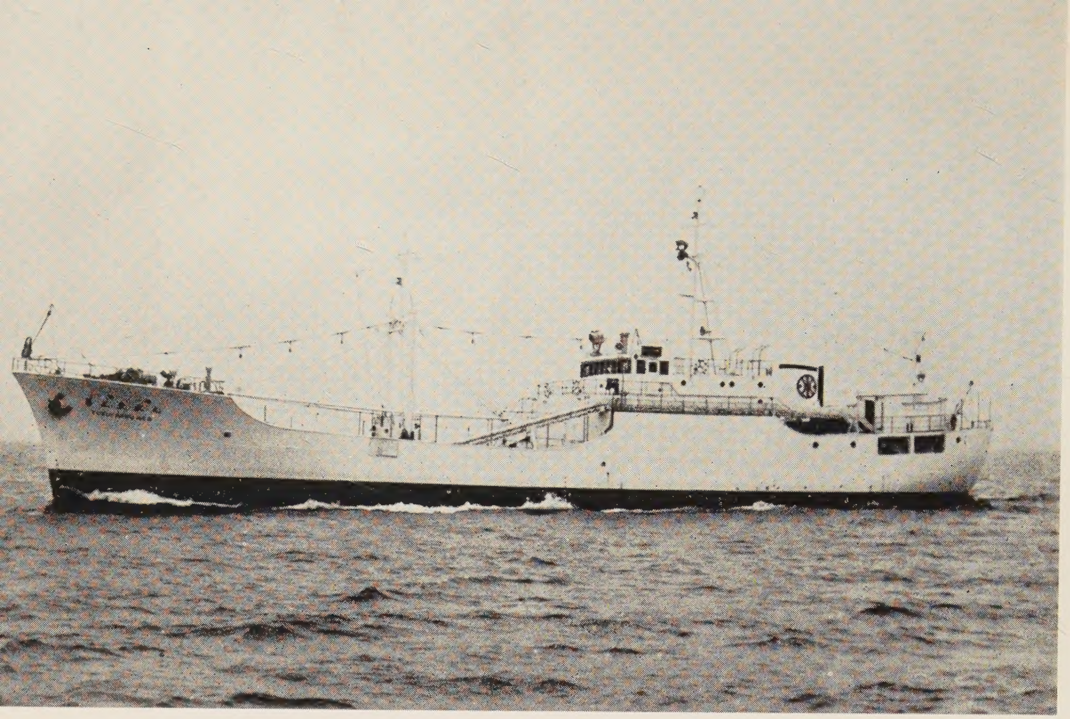
業　界　メ　モ ………………………………………………………………………………………26

鮪類水揚価格表（三崎）昭和33年3月 ………………………………………………………………24

各種鋼製漁船の建造並に修理

株式会社　金指造船所

本社工場	清水市三保 4010—19	電話　清水 2380～2 3796～7
塚間工場	清水市三保弁天 492	電話　清水 3870～7
東京事務所	東京都港区芝田村町 3ノ4	電話　芝(43)7296～8
三崎出張所	三浦市三崎町西野 34	電話（三浦） 8 5 1



第 3 東 水 丸

船主	東都水産株式会社		
造船所	株式会社 新潟鉄工所		
主要寸法		長 40.00m×幅8.40m×深4.25m	
総屯数		499.72屯	
魚艙容積		530m³	
燃料油艙		260m³	
速力		最大 13.15節	
主機	デーゼル1000HP（新潟）		1基
補機	デーゼル100HP,42HP（新潟）		各1基
無線	500W，75W（日本無線）		各1基
冷凍装置	日新興業設計施工 アンモニヤ直膨式100HP		2基
レーダー（レーセオン），方探（光電），魚探（産研） 其の他			各1式
竣工		昭和32年10月24日	

漁船用中短波無線送受信装置
漁船用中短波無線電話装置
製作工事販売保守一式

合資会社 **三崎無線電**

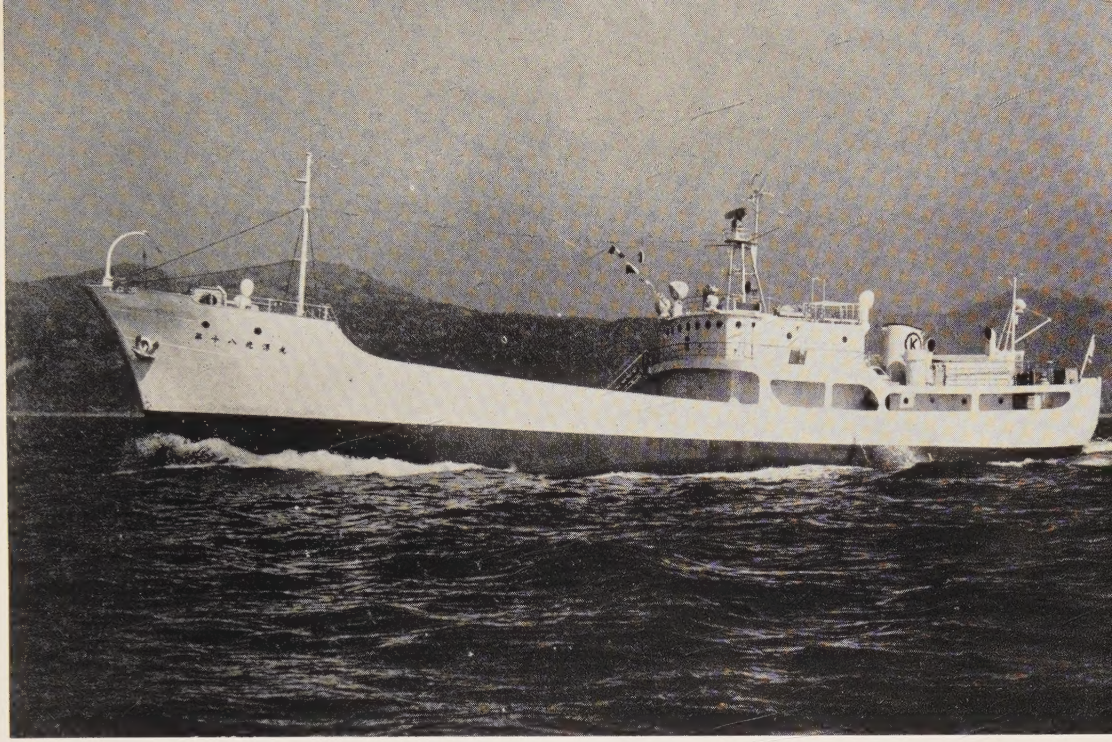
本社．営業所　三浦市三崎町仲崎187　電話
工　　　場　三浦市三崎町六合原660　電話
八戸出張所　青森県八戸市鮫町住吉8

漁船の冷凍装置に定評ある

日新興業株式会社

本　　社　大阪市北区中之島3の3　（朝日ビル）TEL. 北浜（23）9736―7（直通）
大代表(23)9531(朝日ビル交換台)
東京支店　東京都中央区銀座西6の3（朝日ビル）TEL. 銀座（57）6804.6810.6811
清水出張所　清水市三保本村四区　TEL. 清水（2）3507
三崎サービスステーション三浦市三崎町西野34　金指造船所三崎出張所内TEL.三浦851

施工船名
第 3 東 水 丸
第 18 光 洋 丸
笠 置 丸
第 15 丸 高 丸
第 18 海 王 丸
第 1 昭 和 丸
（其の他 約五百隻）



第 18 光 洋 丸

装備船名	
第 18 光 洋 丸	
第 32 大 黒 丸	
第 12 全 功 丸	
第 30 振 興 丸	
第 12 福 生 丸	
其 の 他	

機工業所

三浦）2543・3431番
三浦）2960番

船　主　光洋丸漁業生産組合（徳島県）
造船所　株式会社　三保造船所

主要寸法		長 41.70m×幅7.50m×深3.80m
総屯数		349.21屯
魚艙容積		373.28m³
燃料油艙		163.24m³
速力		最大 11.884節
主機	デーゼル650IP（赤阪）	1基
補機	デーゼル100IP（赤阪）	2基
無線	200W，100W（三崎電機）	各1基
冷凍装置	日新興業設計施工 アンモニヤ直膨式50IP	2基

レーダー（神戸工業），方探（光電），音測兼魚探（日本電機），ＭＣＰ（東京計器）其の他　各1式

竣工　昭和33年3月15日

鋼製漁船・貨物船・建造並びに修理

株式会社　三保造船所

本　社　静岡県清水市三保3797　電話清水(2)代表2201番

東京事務所　東京都中央区八重洲3の7東京建物ビル705　電話 千代田（27）5522．6775．9761番

営業品目

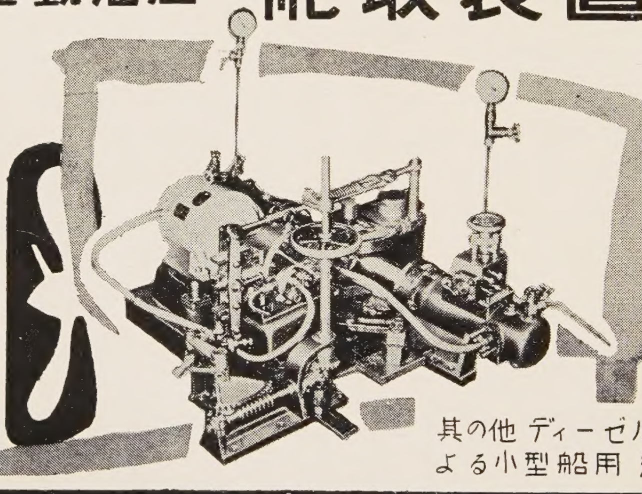
商船用・漁船用並びに陸上用無線通信装置の製造
装備・補修一式

七洋電機株式会社（ナナヨウデンキ）

取締役社長　満本英一
取締役　橋本清
取締役　長田孝
本社　東京都目黒区中目黒4丁目1315番地
電話荏原（712）2525・2526番

川崎ヘルショウ式
電動油圧 **舵取装置**

1HP～3HP



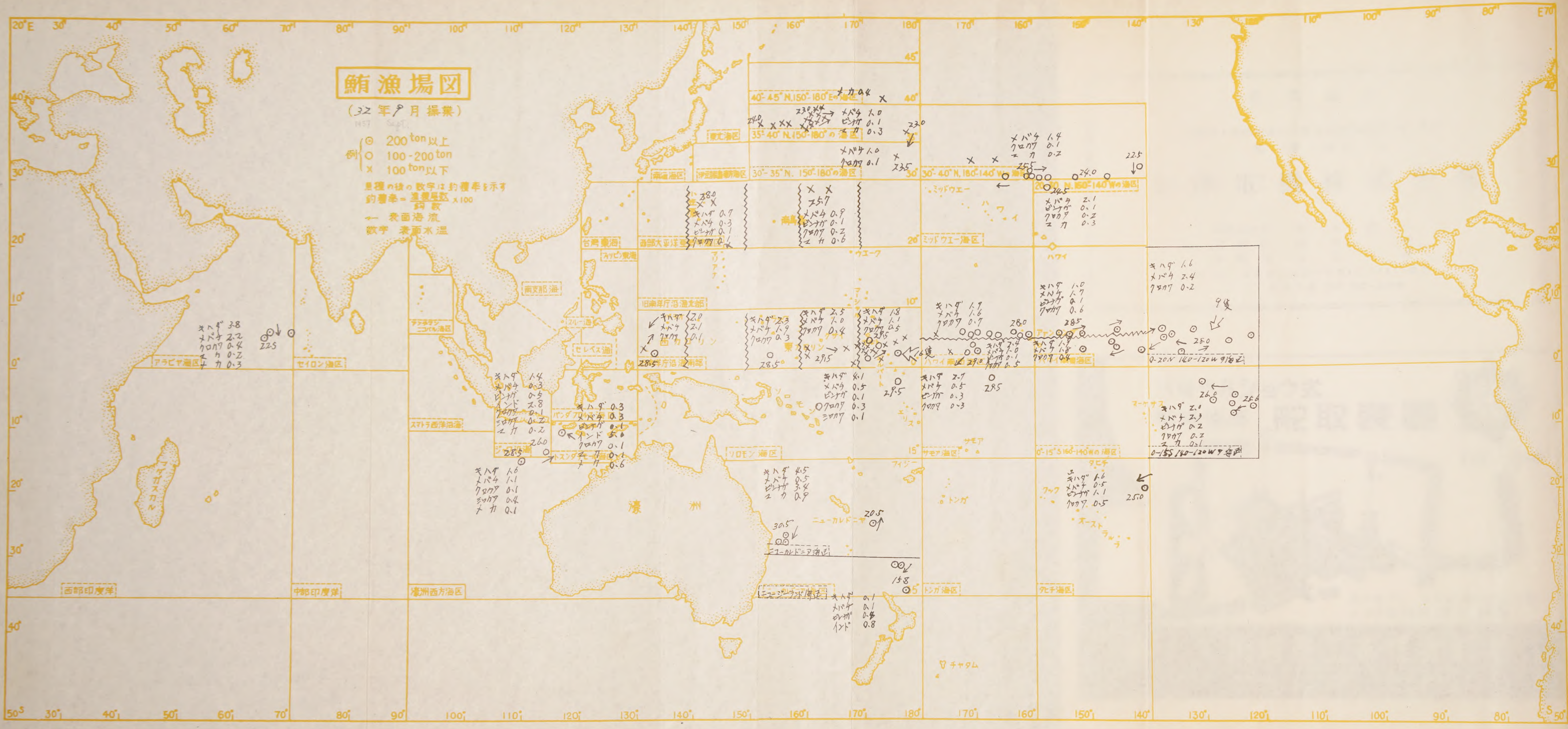
其の他 ディーゼル機関の排気利用による小型船用 造水装置

川崎重工業株式會社

神戸市生田区東川崎町二丁目一四 (電) 湊川(5) 7531
東京支店　東京都港区芝田村町一丁目(日比谷ビル)(電) (59) 6101
(本紙名記入の上御一報下さればカタログ御送附致します)

Digitized by the Internet Archive
in 2025

https://archive.org/details/tuna-fishing_1958_49



鮪漁場図
(32年9月操業)
1957 Sept.
例
⊙ 200 ton 以上
○ 100-200 ton
× 100 ton 以下
魚種の後の数字は釣獲率を示す
釣獲率 = 漁獲尾数 / 鈎数 ×100
← 表面海流
数字 表面水温
40°-45°N, 150°-180°E の海区
35°-40°N, 150°-180° の海区
30°-35°N, 150°-180° の海区
30°-40°N, 180°-140°W の海区
東北海区
南西海区
台湾東海
西部大平洋海区
フィリピン東海
南支那海
旧南洋庁沿海北部
旧南洋庁沿海南部
セレベス海
アラビヤ海区
セイロン海区
スマトラ西岸沿海
ソロモン海区
ハワイ南方海区
ミッドウエー海区
サモア海区
トンガ海区
タヒチ海区
ニューカレドニア海区
ニュージーランド海区
西部印度洋
中部印度洋
濠洲西方海区
0-15°S 160-140W の海区
0-20°N 140-120°W
0-15°S 140-120°W
濠洲
マダガスカル
ミッドウエー
ハワイ
ウエーク
フィジー
トンガ
サモア
タヒチ
クック
オーストラル
マーケサス
ニューカレドニア
チャタム

三崎他二港の水揚調査を主体とする遠洋鮪漁業の考察

(昭和32年9月現況)

三　崎	鮪 漁 業 研 究 会	(調査研究部)
	神奈川県水産試験場	(資源部鮪担當)
東京，燒津	南 海 区 水 産 研 究 所	(遠洋資源部)

1　調 査 の 概 要

昭和32年9月分として調査した鮪延繩漁船数は、三崎50，東京57，浦賀1，計108隻で8月よりいちじるしく増加した。体長測定船数は58，調査海区数は23である。

2　漁 況 の 概 要

(キ　ハ　ダ)

0—20°N, 140—120°W の海区は低下しつつあり、0—15°S, 140—120°W の海区は春季に比して低率、ハワイ南東海区は、5°N 以北以南とも冬の不漁期に向いつつあり、ハワイ南西海区 5°N以北も同様、同海区 5°N以南では、初夏の高率から低下しているが、9月はやや恢復した。タヒチ海区は8月より増加、サモア海区は好漁が続き、南洋南部では150—170°Eの海域が最も高く稍好漁、ソロモン海区 0—5°Sは不漁期、5—10°Sも低率と思われたが、極めて高率が得られ、ニューカレドニア海区では、8月より更に上昇して盛漁となり、小スンダ・チモール海区は低率、ジャワ沿海、濠洲西方の両海区は、ほぼ同様の率でやや好漁、アラビア海区は8月より増加して高率期である。

(メ　バ　チ)

0—20°N, 140—120°Wの海区は7月から同様の率で好漁、0—15°S, 140—120°Wの海区もほぼ同率、30—40°N, 180—140°Wの海区は、この海区としては低率、20—30°N, 160—140°Wの海区では、昨年同期とほぼ等しく好漁期にあるようで、ハワイ南東海区は、上昇の傾向をみせているがまだ不漁、ハワイ南西海区 5°N以北、以南も、7.8月より増加したが、以北では當分同様の率が続くものと思われる。35—40°N, 150—180°Eの海区および30—35°N, 150—180°Eの海区では好漁、西部太平洋160—170°Eの海域ではやや好漁、旧南洋庁沿海南部130—140°E, 150—160°E の海域では高率、160—170°Eおよび170—180°Eの海域はやや低い。ニュージーランド海区は低率が続き小スンダ・チモール海区、ジャワ沿海海区も不漁、濠洲西方海区では高率、アラビア海区は8月より増加している。

(ビンナガ、インドマグロ)

ビンナガは、タヒチ海区の北部でやや好漁が続き、ソロモン海区は低率期、ニューカレドニア海区も低下過程にあると思われるが、8月より増加している。ニュージー

ランド海区、小スンダ・チモール海区も低く、アラビア海区は不漁となつた。

ニユージーランド海区北部のインドマグロは、8月来の高率を続けて、更に増加した。インドマグロは、小スンダ・チモール海区においても、いちじるしい好漁がありジヤワ沿海海区も相當な高率である。

(カ　ジ　キ　類)

クロカワは、ハワイ南東海区で次第に増加して、8月と同じく5°N以北の海域が以南より高率、ハワイ南西海区でも同様な傾向があらわれて、ともに好漁期である。タヒチ海区においてもやや増加の傾向があり、南洋南部170°E以東の海域は低下過程に入つた。アラビア海区のクロカワも低率期である。シロカワは、濠洲西方で僅か高くマカジキは、30—40°N, 180—140°W の海区、20—30°N, 160—140°W の海区、35—40°N 150—180°E の海区西部太平洋170°E以西の海域等の太平洋北部でやや好漁で、メカジキは、40—45°N, 150—180°Eの海区で高率である。

3 各海区の漁況

A. 赤道以北140°W以東漁場

(0—20°N, 140—120°Wの海区)

この海区の調査船は9隻、海区南部で東西に擴がつて操業している。海区南部の南赤道流と赤道反流とが接する附近の海流は極めて錯雜している。

(キ　ハ　ダ)

キハダは、高率期を過ぎて次第に減少しつつあるが、9月は1.63で8月1.71よりは激減せず、なお好漁である。魚体は大型で、141—160cmのものが45.7%に及んでいる。

(メ　バ　チ)

7, 8月より僅か減少したが、2.39で殆んど變らず、高率期にあるものと思われる。他海区に比較すると、大型魚が多いが、8月のように集中的に漁獲されていない。モードは、121—130cmおよび141—150cmにある。

(ク　ロ　カ　ワ)

依然として低率で、不漁のまま冬季の低率期に入るようである。8月と同様に、この海区のクロカワは中型が多く、体長組成は変化ない。

B. 赤道以南140°W以東漁場

(0—15°S, 140—120°Wの海区)

9月は、海区の北部および東部海域で、計6隻を調査した。操業海域では、南赤道流がおおむね西流している。

(キ　ハ　ダ)

この海区のキハダは、本年1—4月3.5程度の高率を続けていたが、9月は2.00を示し、低率期にあるようである。体長組成は大型魚が多く、141—150cmのものが漁獲尾数の半ばを占め、0—20°N, 140—120°Wの海区とほぼ同様である。

（メ　バ　チ）

メバチもキハダと同じく低率期にあるが、2.30とやや高い。魚体は大型であるが、北方漁場に比較すると中型が多くめだつている。

（ビ　ン　ナ　ガ）

この海区におけるビンナガは、南部に高く、10°S以北の海域では、周年おおむね不漁で、9月の操業海域では0.17の低率であつた。

（ク　ロ　カ　ワ）

クロカワは不漁期であるが、南部海域では上昇過程に入りつつあるようで、海区平均釣獲率0.20を示している。

C. 赤道以北 180—140°W 漁場

（30—40°N, 180—140°Wの海区、20—30°N, 160—140°Wの海区、ハワイ南東海区ハワイ南西海区）

30—40°N, 180—140°Wの海区においては、主として、30—35°N, 170—150°Wの海域で11隻、20—30°N, 160—140°Wの海区では、30°N線附近で1隻、ハワイ南東海区では、1—8°Nで8隻、ハワイ南西海区でも1—8°Nで13隻を調査した。海流については、漁場圖參照のこと。

（キ　ハ　ダ）

ハワイ南東海区では、キハダの低下期に入り、5°N以北は、以南より低率で、以北1.63, 以南1.94の率である。ハワイ南西海区も低下期に入つているが、好漁末期でなお高く、5°N以北は1.95で8月2.56よりやや減少、5°N以南は2.44で、7月の2.22と殆んど変化がない。

体長組成は、南東、南西海区とも、121—130cmに山があり、特に南西海区では、この体長範囲のものが50%以上に達し、南東海区では、より大型のものが多くなつて、8月と同傾向である

（メ　バ　チ）

30—40°N, 180—140°W の海区では、夏季の低率期から次第に増加しつつあるようで、8月1.34から9月1.41と僅か上昇している。

20—30N, 160—140W の海区のメバチは、冬季の高率期に向つて上昇過程にあり、2.06とやや好漁である。

ハワイ南東海区では、5°N以北以南とも増加の傾向を見せ、両海域それぞれ1.68, 1.83となつた。

ハワイ南西海区5°N以北においても、8月1.07よりやや増加して1.53, 5°N以南も7月の0.63より1.03と上昇している。

体長組成は、30—40°N, 180—140°Wの海区においては、131—140cmに山があつて昨年同期に比較すると、やや小型になつている。

20—30°N, 160—140°Wの海区では、中型が多く111—140cmのものが68.3%を占めている。

ハワイ南東海区の魚体は、大型から中型に廣く分布して8月と大差なく、南西海区のメバチは、南東海区より小型になつている。

（ビ　ン　ナ　ガ）

30—40°N, 180—140°Wの海区の調査船11隻のうち、西部海域で操業した4隻は、平均0.05, また 20—30°N, 160—140Wの海区の1隻は、0.19の釣獲率を得ており、今後、次第に増加するのであらう。

30—40°N, 180—140°Wの海区の体長組成は、他海区に比して大型で、111—120cmに山があり、101cm以上のものが88.7%を占めている。

（ク　ロ　カ　ワ）

ハワイ南東海区、ハワイ南西海区とも高率期となり、両海区ともに、5°N以北が以南より高く、また、それぞれ南西海区が南東海区より好漁である。

両海区の以北以南海域における体長組成をみると、161—170cmに山があつて、この体長範囲のものがそれぞれ20—30%を占めている。

（マ　カ　ジ　キ）

30—40°N, 180—140°Wの海区は高率期であるが、8月よりやや低下して9月は0.25となつた。20—30°N, 160—140°Wの海区も0.34の好漁が得られている。

30—40°N, 180—140°Wの海区においては、体長組成の山が131—140cmにあり、昨年同期の組成と同様である。

D. 赤道以南 180—140°Wの海区

（タヒチ海区、サモア海区）

タヒチ海区では北東部で1隻、サモア海区では北部の1隻が調査されている。

（キ　ハ　ダ）

タヒチ海区のキハダは、8月の0.91より上昇して1.61と高率、サモア海区も8月2.50よりやや増えて9月2.70で、なお好漁期にある。

タヒチ海区の魚体は大型で、141—150cmのものが50%, 他の40%が151—160cmの体長範囲にある。

（メ　バ　チ）

タヒチ海区では周年低率であるが、9月は0.48と8月0.28より増加し、サモア海区は、夏季の好漁期を過ぎたようで、0.52に半減した。

タヒチ海区のメバチも大型で、141—160cmのものが67.5%に達している。

（ビ　ン　ナ　ガ）

タヒチ海区におけるビンナガは、冬季の好漁期に向つて、本年3月の低率から恢復しているが、9月は1.08で8月1.19より低い。本年末までには、なお高率が得られるであらう。

サモア海区は、0.32で極めて低い。

（ク　ロ　カ　ワ）

タヒチ海区では、8月0.44よりやや上昇して9月0.54となり、次第に好漁期に入

るものと思われる。サモア海区では、8月0.40から0.29に減少した。

タヒチ海区におけるクロカワの体長組成は、171—180cm と191—200cm とに山があつて、大型、小型は少なく、おおむね従来と同様である。

E. 北部太平洋漁場

(40—45°N, 150—180°Eの海区, 35—40°N, 150—180°Eの海区、30—35°N, 150—180°E の海区、西部太平洋亜熱帯海区)

40—45°N, 150—180°Eの海区においては、41°N, 166°E附近でメカジキを対象とした1隻、35—40°N, 150—180°E の海区では、海区西部から中部に亙る海域で16隻、また、30—35°N, 150—180°E の海区では 東部で1隻、西部太平洋海区においては、140—150°Eの海域で3隻、160—170°E の海域で2隻を調査した。

(キ　ハ　ダ)

西部太平洋亜熱帯海区 140—150°E の海域におけるキハダは、秋季やや高率で、本年9月も0.75を示している。160—170°E の海域においては、0.02と極めて低率であつた。

(メ　バ　チ)

35—40°N, 150—180°Eの海区においては、150—160°E の海域で0.92, 160—170°E の海域で0.98 の高率を呈し、好漁期にある、また、30—35°N, 150—180°E の海区東部170—180°Eの海域のメバチも高率で1.03, 西部太平洋160—170°Eの海域も、0.80で好漁、140—150°Eの海域では、不漁期が続いて、9月は0.30, 6月の低率 0.11よりやや高い。

体長組成は、35—40°N, 150—160°Eの海域では、131—140cmに山があり、151—160cm に第2の山がある。30—35°N, 170—180°E の海域および西部太平洋 140—170°E の海域では、121—130cmと151—160mとにそれぞれ第1, 第2, の山がある。

(ビ　ン　ナ　ガ)

35—40°N, 150—180°E の海区および30—35°N, 150—180°E の海区では、それぞれビンナガの冬季の好漁期を控えて、僅かづつ出現し始めている。

両海区の体長組成は、81—110cmの範囲にあり、91—100cm のものが体長測定尾数の過半数を占め、ハワイ南西、タヒチ海区と同形である。

(クロカワ、マカジキおよびメカジキ)

西部太平洋亜熱帯海区のクロカワは、好漁期後の低下過程で低率となりつつある。

35—40°N, 150—180°Eの海区では、マカジキが比較的好漁で0.28, 西部太平洋 160—170°E の海域では0.60の高率である。

また、40—45°N, 150—180°Eの海区のメカは、41°N, 166°E附近の海域で0.36と相当な高率で、10月には、更に上昇するであろう。

35—40°N, 150—180°Eの海区のマカジキは、体長組成の山が151—160cm にあり、西部太平洋はやや小型で、131—140cm のものがほとんど半数を占め、5月と同様である。

F. 旧南洋庁沿海漁場

（旧南洋庁沿海南部）

この海区における9月の調査船は、計24隻で、130—140°E の海域で2隻、150—160°Eの海域で1隻、160—170°Eの海域では5隻、170—180°Eの海域にては16隻を調査した。海流については、漁場圖参照のこと。

（キ　　ハ　　ダ）

旧南洋庁沿海南部海区では、150—170°Eの海域より東部と西部海域が比較的低率である。

130—140°E の海域は、4月から5ヶ月ぶりに調査されたが、4月の高率4.9よりはるかに減少して、9月は1.97であつた。11, 12月までには、好漁に向い始めるであろう

150—160°E の海域は、6月2.44の高率とほとんど變らず2.28と好漁である。10月には不漁となるであろうが、不漁期は長く續かず、1, 2ヶ月で上昇増加の傾向に転ずるものと思われる。

160—170°Eの海域においても、6月の高率2.44と変らず2.48を示して好漁である。

170°E以東の海域では、8月2.08より9月1.78とやや減少した。

体長組成は、170°E以東、以西とも従来と同様で、101—110cm および 121—130cm に山がある。

（メ　　バ　　チ）

9月のこの海区のメバチは、西部海域が東部よりも高率となつている。

130—140°Eの海域は、2.15の高率で、9月にこの高率を示すことは、従來みられなかつたことで、150—160°E の海域でも1.87といちじるしい高率、160—170°E の海域では、昨年12月より1.0前後の率が續いて、9月も1.03を示している。また、170°E以東は、8月1.58とやや好漁であつたが、9月は1.09とやや減少、低率がしばらく続くようである。

体長組成は、従来と同様である。

（ク　ロ　カ　ワ）

170°E以西の海域は、西寄りに不漁となつて平均釣獲率0.30, 170—180°Eの海域は、8月0.80の高率から半減して0.41を示している。

G. ソロモン以南漁場

（ソロモン海区、ニューカレドニア海区、ニュージーランド海区）

ソロモン海区では、0—5°S, 175°E と 5—10°S, 160°E の海域でそれぞれ1隻、ニューカレドニア海区では、25°S, 170°E 附近で1隻、海区南西部で3隻、また、ニュージーランド海区においては、8月と同様にニュージーランド北東方の海域で3隻を調査した。

（キ　　ハ　　ダ）

ソロモン海区0—5°Sの海域のキハダは、6月5.53と極めて高率であつたが、9月は2.13で、夏季の低率期を過ぎ、上昇過程に入るものと思はれる。5—10°S の海域では

ソロモン群島東方の160°E 附近において従来みられなかつた5.11の高率があらわれた。

ニユーカレドニア海区におけるキハダは、7月より昨年同期に比して高率が続き、9月は4.50とさらに上昇した。昨年と同様の傾向が続くならば、10月には減少するものと思はれる。

ニユージーランド海区では、8月と同じく0.10の低率である。

体長組成は、ソロモン海区にあつては121—130cm, ニユーガレドニア海区では131—140cmにモードがあつて、ニユーカレドニア海区の方が大型である。

（メ　バ　チ）

ソロモン海区0—5°Sの海域のメバチは、6月の1.34の率を示し、この海域としてはいちじるしい好漁であつたが、9月は0.72で、まだかなり高い率を保つている。5—10°Sでは、8月0.28とほとんど変らず9月0.36と低調である。

ニユーカレドニア海区では、8月より低下して9月0.54となり、まだやや高率である。

ニユージーランド海区においては、いちじるしく貧漁となつた。

ニユーカレドニア海区におけるメバチの体長組成は、101—110cmに第1の山、141—150cmに第2の山があり、従來と同様の傾向を示している。

（ビ　ン　ナ　ガ）

ソロモン海区0—5°Sの海域においては、初夏6月の好漁2.39から減少、不漁期に入つて9月は0.27の低率となつた。5—10°Sの海域では、8月は好漁末期で、2.46とまだ高かつたが、9月は完全に不漁期に入り漁獲皆無である。

ニユーカレドニア海区では、8月2.30で7月より半減したが、9月は再び上昇、3.38の高率となつた。この海区のビンナガは、現在低減過程にあり、10月には、激減をみるであろう。

ニユージーランド海区は低調、8月は全然漁獲がなく、9月は0.43の貧漁であつた。

ニユーカレドニア海区におけるビンナガの体長組成は、81—90cmに山があり、昨年秋季に比較するとやや小型である。

（インドマグロ）

ニユージーランド海区北東隅の3隻は、8月にひき続き、インドマグロの好漁を得て、9.88と好況である。この3隻の漁況を比較すると、31—32°S附近を主漁場とした1隻は6.19, 31—32°Sから34—35°Sに亘る海域で操業した1隻は8.73, 34—35°S附近の他の1隻は10.36の釣獲率を得て居り30—35°S, 175°E—180°の海域では、おおむね南寄りに高率のようである。

体長組成は、8月と同様である。

（クロカワ、シロカワ）

ソロモン、ニユーカレドニア海区のクロカワは不漁、シロカワはニユーカレドニア海区で好漁期直前となつたが、まだ0.01の低率である。

H. 東部印度洋漁場

（小スンダ・チモーチ沿海、ジヤワ沿海、濠洲西方海区）

この漁場の調査船は各海区1隻で、計3隻であつた。小スンダ・チモール沿海ではその西部海域、ジヤワ沿海では東部、濠洲西方海区では、北部の102—113°E の海域で、それぞれ1隻が調査されている。海流は、小スンダ・チモール沿海は、北西流約1ノット、ジヤワ沿海では、北東～東向きの弱流がみられた。

（キ　ハ　ダ）

小スンダ・チモール沿海では、不漁期になつて、9月は0.27の低率である。ジヤワ沿海では、10°S以北と以南の差がはなはだしく、10°S以北は5.52, 以南は0.34を示している。濠洲西方海区は好漁期に入り始め、9月1.58とやや高率である。

体長組成は、濠洲西方海区では、141—150cmに山があり、中型魚がほぼ50%に達している。他海区の体長組成は調査出来なかつた。

（メ　バ　チ）

小スンダ・チモール沿海およびジヤワ沿海海区は、ともに不漁で、それぞれ0.31, 0.33の率である。ジヤワ沿海海区は、従来、秋季に高率があらわれていたが、今年は極めて低率で、10°S以北の海域も0.81であるに過ぎない。濠洲西方海区においては、1.08を示し、この海区におけるこの時期の釣獲率としては高率である。

濠洲西方海区の体長組成は、141—150cmに山があつて、中型魚が58.1%を占めている。

（ビ　ン　ナ　ガ）

小スンダ・チモール沿海は0.14, ジヤワ沿海の10°S以北と濠洲西方海区は漁獲皆無ジヤワ沿海10°S以南は最も高いが0.63に過ぎず、全般的に不漁である。

（イ ン ド マ グ ロ）

インドマグロは、小スンダ・チモール沿海10°S以南で好漁となり、5.04といちじるしく高率となつたが、10, 11月には低減過程に入り、本年中には低率を示すであらう。

ジヤワ沿海の10.S以北では漁獲なく、10°S以南で3.56の高率を呈している。

濠洲西方海区は不漁である。

（クロカワおよびその他のカジキ類）

クロカワは各海区とも不漁、シロカワはジヤワ沿海10°S以南で0.30, 濠洲西方海区で0.43と好漁期に入り、小スンダ・チモールおよびジヤワ沿海10°S以南のマカジキも好漁期となつて、それぞれ0.11, 0.23を示している。

濠洲西方海区における9月のシロカワは中型以下が多く、体長組成の第一の山が171—180cmにあつて、第二の山が140—150cmにあり、170cm以下の小型若年魚が50%に達している。

I. 西部印度洋漁場

（アラビア海区）

アラビア海区では、8月と同様に4°N, 65—70°E附近海域で3隻が調査された。海

流の状況は複雑であるが、おおむね南向きの弱流である。魚体体長については調査できなかつた。

（キ　ハ　ダ）

7月のいちじるしい低率1.24から、8月2.47, 9月3.80と次第に恢復していて、従来とは異なつた傾向があらわれつつある。2—4°N, 67—69°Eの海域で操業した1隻は5.39の高率で、やや北方の3—5 N附近の2隻は、2.86, 1.68と不漁であつた。

（メ　バ　チ）

9月は好漁期で、7月8月よりも高く2.19を示している。10月からは、低下過程に入るであろう。

（ビ　ン　ナ　ガ）

8月には、低率期であるにもかかわらず、1.32とやや高かかつたが、9月は0.03と極めて低率である。

（ク　ロ　カ　ワ）

クロカワは好漁末期で、9月0.44とまだ高く、8月0.54とほぼ同率であつた。10月には不漁期に入るものと思われる。

鮪類標識放流について

◇ 昭和33年3月16日から4月15日迄に放流実施の報告のあつた船数は2隻（7尾）である。

放流実施船名及び実施の概要

船　名	標識番号	放流年月日	放流位置	魚種（尾数）
晴　和	c 1056 c 1057	33.2.4— 33.2.7	9°— 10°S 142°—140°W	びんなが (2)
18 七　洋	E0016— E0020	33.2.1— 33.3.3	18°— 23°S 137°—134°W	きはだ (4) くろかわ (1)

月別、漁場別、鮪類漁獲調査表

漁場	操業海域	調査隻数	水温 (C°)	流向 流速	操業回数	漁具数	鈎数		ま きはだ	ま めばち
0— 20N 140—120W	0— 12N 148—119W	9	25.3 28.5	SE 0.8 NE 1.0 NNE 0.5 NW 1.0	297	116,366	537,497	尾数 %	8768 1.63	12852 2.39
0— 15S 140—120W	1N— 10S 141—117W	6	25.0 28.6	W. 0.3 1.0 NW 0.5 Sw/w 0.3 1.0	211	80,333	365,172		7286 2.00	8385 2.30
30— 40N 180—140W	28— 39N 179—132W	11	20.5 28.2	NE 0.2 SE 0.3	268	99,759	434,090		43 0.01	6123 1.41
20— 30N 160—140W	28— 32N 162—140W	1	23.0 25.9		31	46,160	11,540			949 2.06
ハワイ南東 (5°N 以北)	3— 8N 158—137W	4	26.9 29.3	E/N E 1.1	95	36,373	168,262		2743 1.63	2830 1.68
ハワイ南東 (5°N 以南)	1— 7N 155—137W	4	25.4 29.3	NW SW 0.5—1.4	107	39,892	181,188		3513 1.94	3308 1.83
ハワイ南西 (5°N 以北)	4— 8N 178—156W	9	27.6 30.0	NE—E 0.6—2.0	205	74,514	299,326		5823 1.95	4566 1.53
ハワイ南西 (5°N 以南)	1— 7N 168—173W	4	28.1 29.9	S W	78	26,874	116,320		2838 2.44	1195 1.03
タ ヒ チ	17— 21S 146—139W	1	24.1 25.6	SW 0.2 0.4	38	14,714	58,856		948 1.61	281 0.48
サ モ ア	1— 3S 166—173W	1	28.8 30.2		17	6,120	24,480		660 2.70	128 0.52
40— 45N 150—180E	41— 21N 165—140E	1			20	6,000	36,000			
35— 40N 150—180E	35— 40N 154—168E	16	19.0 25.8	NNE ENE-SSE 0.2—1.5	280	73,205	290,204		31 0.01	2791 0.96
30— 35N 150—180E	31— 36N 173—180E	1	22.1 25.4	SSW 0.4	23	7,744	39,220		3 0.01	403 1.03
西部太平洋 (170°E以西)	20— 31N 140—169E	5	24.8 29.3		91	26,494	104,872		277 0.26	704 0.67
南洋南部 (170°E以東)	1S— 9N 165—180E	16	27.4 30.4	E—NE 0.5—1.8	358	128,524	596,024		10621 1.78	6484 1.09

（昭和32年9月操業分）

（別表 1）

ぐろ			かじき					かつお	雑	さめ	計	記事
びんなが	黒まぐろ	いんど鮪	くろかわ	しろかわ	まかじき	めかじき	ばしょう					
43 0.01			1249 0.23	118 0.02	164 0.03	168 0.03	17	350 0.07	509 0.09	743 0.14	24981 4.65	鮫未調査隻数 5 体長測定隻数 5
636 0.17			724 0.20	68 0.02	246 0.07	72 0.02	8	503 0.14	221 0.06		18149 4.97	6 4
93 0.02	3		419 0.10	9	1083 0.25	26	2		229 0.05	1237 0.28	9263 2.13	3 7
58 0.13			73 0.16		155 0.34				23 0.05		1258 2.73	1 1
118 0.07			1079 0.64	23 0.01	23 0.01	18 0.01	3	16 0.01	15 0.01		6868 4.08	4 2
11 0.01			819 0.45	33 0.02	28 0.01	30 0.02	10 0.01		110 0.06	640 0.35	8502 4.69	2 3
28 0.01			2193 0.73	20 0.01	40 0.01	31 0.01	8	30 0.01	35 0.01	428 0.14	13202 4.41	5 8
92 0.08			622 0.53	6 0.01	3	10 0.01	1			114 0.10	4881 4.19	2 2
637 1.08			385 0.54	8 0.01	53 0.09	8 0.01					2320 3.94	1 1
79 0.32			72 0.29		2 0.01	8 0.03				17 0.07	966 3.95	
	1					130 0.36				430 1.19	561 1.56	(めか縄)
441 0.15	2		67 0.02		813 0.28	45 0.02	2	3	87 0.03	2501 0.86	6783 2.34	0 10
17 0.04	1		21 0.05		20 0.05	6 0.02	1		11 0.03	213 0.54	696 1.77	0 1
53 0.05			159 0.15	1	424 0.40	13 0.01	4		45 0.04	674 0.64	2354 2.24	1 2
177 0.03			2808 0.41	31 0.01	7	69 0.01	118 0.02	46 0.01	32 0.01	299 0.05	20692 3.47	7 9

漁場	操業海域	調査隻数	水温 (C°)	流向 流速	操業回数	漁具数	鈎数		ま	
									きはだ	めばち
南洋南部 (170°E以西)	1— 9N 128—171E	8	26.0 30.4	E—ESE 0.4—1.2 NW SW 1.0	151	54,144	230,908	尾数 %	5281 2.29	3450 1.49
ソロモン	1— 9S 156—177E	2	29.0 30.2		47	17,155	56,320		2299 4.08	272 0.48
ニューカレドニア	22— 30S 153—172E	4	19.2 23.5	S—SE 0.5—2.0 N-NNE 0.6	84	31,707	141,352		6366 4.50	769 0.54
ニュージーランド	29— 36S 154—179E	3	15.4 16.5	W 0.4—0.6 SSW 0.5—0.7 WSW 0.1—0.4	62	23,069	98,011		100 0.10	78 0.08
小スンダチモール	9— 12S 116—119E	1	25.9 26.5	NW 0.8 1.0	15	7,250	29,000		78 0.27	90 0.31
ジャワ沿海	8— 14S 112—116E	1	25.8 26.6	NE—E 0.1—0.5	14	5,600	25,000		354 1.42	83 0.33
濠洲西方	14— 18S 102—113E	1	27.8 29.2		27	11,182	44,728		705 1.58	482 1.08
アラビア	2— 5N 63— 77E	3	27.0 28.7	S 0.2—0.5	49	21,929	87,716		3337 3.80	1919 2.19
合計	23	112			2568	955,108	3976,086		62074 1.56	58142 1.46

ぐろ			かじき					かつお	雑	さめ	計	記事
びんなが	黒まぐろ	いんど鮪	くろかわ	しろかわ	まかじき	めかじき	ばしょう					
22			692	22	11	38	66	30	68	325	10003	鮫未調査隻数 2
0.01			0.30	0.01		0.01	0.03	0.01	0.03	0.14	4.33	体長測定隻数 3
52			163	31	4	6	60		57	203	3147	1
0.09			0.29	0.06	0.01	0.01	0.11		0.10	0.36	5.59	1
4774		3	46	18	407	102		64	239	248	14036	1
3.38			0.03	0.01	0.29	0.07		0.04	0.17	0.18	9.93	2
420		9680			19						10297	3
0.43		9.88			0.02						10.51	1
42		1462	6	16	32	14	5		5		1750	1
0.14		5.04	0.02	0.06	0.11	0.05	0.02		0.02		6.03	0
125		705	16	62	57	11	3				1416	1
0.50		2.82	0.06	0.25	0.23	0.04	0.01				5.66	0
			63	194	4	31	82		23	405	1989	0
			0.14	0.43	0.01	0.07	0.18		0.05	0.91	4.45	1
25			389	29	194	107	32		11	288	6331	1
0.03			0.44	0.03	0.22	0.12	0.04		0.01	0.33	7.22	0
7943	7	11850	12065	689	3789	943	422	1042	1720	6514	170445	47
0.20	0.0	0.30	0.30	0.02	0.10	0.02	0.01	0.03	0.04	0.16	4.29	58

月別、漁場別、鮪類体長組成表（昭和32年9月操業分）

（別表2）

魚種	測定船数	漁場	操業海域	操業回数		50 cm 以下	51—60	61—70	71—80	81—90	91—100	101—110	111—120	121—130	131—140	141—150	151—160	161—170	171 cm 以上	計	漁獲尾数
きはだ	5	0—20N 140—120W	0—7N 140—119W	168	尾数						1	13	66	90	70	139	80	18	2	479	4621
					%						0.2	2.7	13.8	18.8	14.6	29.0	16.7	3.8	0.4	100	
	4	0—15S 140—120W	1N—9S 141—121W	161								1	4	24	85	199	86	2		401	4645
												0.2	1.0	6.0	21.2	49.6	21.4	0.5		100	
	3	30—40N 180—140W	30—33N 161—132W	84											1	1	1		1	4	14
															25.0	25.0	25.0		25.0	100	
	2	ハワイ南東 (5°N以北)	3—7N 156—137W	53								5		60	43	46	21	1		176	1305
												2.8		34.1	24.4	26.1	11.9	0.6		100	
	3	ハワイ南東 (5°N以南)	1—7N 155—137W	94								1	14	64	54	40	1			174	3004
												0·6	8.0	36.8	31.0	23.0	0.6			100	
	8	ハワイ南西 (5°N以北)	4—10N 178—156W	190					1		9	64	92	417	150	50	19	6	1	809	5101
									0.1		1.1	7.9	11.4	51.5	18.5	6.2	2.3	0.7	0.1	100	
	2	ハワイ南西 (5°N以南)	1—6N 173—168W	41							4	22	41	142	26	4	1			240	1323
											1.7	9.2	17.1	59.2	10.8	1.7	0.4			100	
	1	タヒチ	17—21S 146—139W	38											7	55	46	3		111	948
															6.3	49.5	41.4	2.7		100	
	2	35—40N 150—180E	35—40N 155—165E	37							1				2				1	4	8
											25.0				50.0				25.0	100	
	1	西部太平洋 (170°E以西)	27—28N 143—145E	15							1	1	2	1	1					6	6
											16.7	16.7	33.3	16.7	16.7					100	
	9	南洋南部 (170°E以東)	1—8N 165—180E	201				3	4	5	78	367	221	362	101	22	3	1		1167	6252
								0.3	0.3	0.4	6.7	31.4	18.9	31.0	8.7	1.9	0.3	0.1		100	
	3	南洋南部 (170°E以西)	2—7N 133—163E	59					3	1	3	30	27	96	51	27	14	4		256	2006
									1.2	0.4	1.2	11.7	10.5	37.5	19.9	10.5	5.5	1.6		100	
	1	ソロモン	4—9S 156—166E	31									25	55	28	2	3			113	1885
													22.1	48.7	24.8	1.8	2.7			100	
	2	ニューカレドニア	25—30S 153—158E	35									78	68	122	48	3			319	1470
													24.6	21.5	38.5	15.1	0.9			100	
	1	濠洲西方	14—18S 102—113E	27				1	4	12	41	58	45	149	156	168	35			669	705
								0.1	0.6	1.8	6.1	8.7	6.7	22.3	23.3	25.1	5.2			100	

魚種	測定船数	漁場	操業海域	操業回数		60 cm 以下	61—70	71—80	81—90	91—100	101—110	111—120	121—130	131—140	141—150	151—160	161—170	171—180	181 cm 以上	計	漁獲尾数
めばち	4	0—20N	0—12N	144	尾数					4	23	37	54	52	63	92	97	77	24	523	5770
		140—120W	140—119W		%					0.8	4.4	7.1	10.3	9.9	12.0	17.6	18.5	14.7	4.6	100	
	4	0—15S	1N—9S	161				1	1	1	19	29	57	98	119	96	121	68	34	644	6115
		140—120W	141—121W					0.2	0.2	0.2	3.0	4.5	8.9	15.2	18.5	14.9	18.8	10.6	5.3	100	
	7	30—40N	30—39N	187		3	1	1	15	15	2	52	142	206	110	101	46	19	14	727	4470
		180—140W	179—132W			0.4	0.1	0.1	2.1	2.1	0.3	7.2	19.5	28.3	15.1	13.9	6.3	2.6	1.9	100	
	1	20—30N	28—32N	31						1	1	22	23	26	11	13	6	1		104	949
		160—140W	162—140W							1.0	1.0	21.2	22.1	25.0	10.6	12.5	5.8	1.0		100	
	2	ハワイ南東	3—7N	53							17	38	26	17	20	25	30	12	8	193	1779
		(5°N 以北)	156—137W								8.8	19.7	13.5	8.8	10.4	13.0	15.5	6.2	4.1	100	
	3	ハワイ南東	1—7N	94					1	5	35	46	33	36	46	84	83	49	26	444	2938
		(5°N 以南)	155—137W						0.2	1.1	7.9	10.4	7.4	8.1	10.4	18.9	18.7	11.0	5.9	100	
	8	ハワイ南西	4—10N	190			3	1	3	7	121	208	169	183	93	87	31	20	16	942	4391
		(5°N 以北)	178—156W				0.3	0.1	0.3	0.7	12.8	22.1	17.9	19.4	9.9	9.2	3.3	2.1	1.7	100	
	2	ハワイ南西	1—6N	41					4	3	28	53	39	23	12	9	4	5	1	181	684
		(5°N 以南)	173—168W						2.2	1.7	15.5	29.3	21.5	12.7	6.6	5.0	2.2	2.8	0.6	100	
	1	タ ヒ チ	17—21S	38									1	7	13	14	5			40	281
			146—139W										2.5	17.5	32.5	35.0	12.5			100	
	10	35—40N	35—40N	180					1	2	8	122	114	176	62	124	74	23	11	717	1770
		150—180E	154—168E						0.1	0.3	1.1	17.0	15.9	24.5	8.6	17.3	10.3	3.2	1.5	100	
	1	30—35N	31—36N	23			1			1	1	10	26	15	8	13	11	4	4	94	403
		150—180E	173—180E				1.1			1.1	1.1	10.6	27.7	16.0	8.5	13.8	11.7	4.3	4.3	100	
	2	西部太平洋	26—31N	41					4	3	3	6	25	15	4	14	14	3		91	323
		(170°E以西)	143—169E						4.4	3.3	3.3	6.6	27.5	16.5	4.4	15.4	15.4	3.3		100	
	9	南洋南部	1—8N	201			7	7	17	10	189	206	144	157	104	36	19	9	1	906	3750
		(170°E以東)	165—180E				0.8	0.8	1.9	1.1	20.9	22.7	15.9	17.3	11.5	4.0	2.1	1.0	0.1	100	
	3	南洋南部	2—7N	59				6	18	17	84	51	11	18	9	5	8	8	11	246	2035
		(170°E以西)	133—162E					2.4	7.3	6.9	34.1	20.7	4.5	7.3	3.7	2.0	3.3	3.3	4.5	100	
	2	ニュー	25—30S	35					1	3	25	14	1	16	18	5	1		1	85	224
		カレドニア	153—158E						1.2	3.5	29.4	16.5	1.2	18.8	21.2	5.9	1.2		1.2	100	
	1	濠洲西方	14—18S	27			1	3	3	9	27	17	73	125	142	51	9			460	482
			102—113E				0.2	0.7	0.7	2.0	5.9	3.7	15.9	27.2	30.9	11.1	2.0			100	

魚種	測定船數	漁場	操業海域	操業回數		40 cm以下	41—50	51—60	61—70	71—80	81—90	91—100	101—110	111—120	121 cm以上	計	漁獲尾數
	5	30—40N 180—140W	30—39N 179—138W	130	尾数 %						1 2.3	4 9.1	9 20.5	21 47.7	9 20.5	44 100	68
び	2	ハワイ南西 (5°N以北)	4—10N 173—159W	56							1 20.0	2 40.0	2 40.0			5 100	5
	2	ハワイ南西 (5°N以南)	1—6N 173—168W	41							3 16.7	13 72.2	2 11.1			18 100	18
ん	1	タヒチ	17—21S 146—139W	38								5 55.6	4 44.4			9 100	637
	10	35—40N 150—180E	35—40N 154—168E	180							32 23.2	83 60.1	23 16.7			138 100	345
な	1	30—35N 150—180E	31—36N 173—180E	23							1 11.1	5 55.6	3 33.3			9 100	17
	2	南洋南部 (170°E以東)	2—7N 165—178E	41								6 85.7	1 14.3			7 100	8
が	2	南洋南部 (170°E以東)	2—7N 160—163E	28					1 12.5			3 37.5	3 37.5	1 12.5		8 100	8
	2	ニユー カレドニア	25—30S 153—158E	35					1 1.3	21 26.9	50 64.1	6 7.7				78 100	1545

魚種	測定船數	漁場	操業海域	操業回數	120 cm以下	121—130	131—140	141—150	151—160	161—170	171—180	181—190	191—200	201—210	211—220	221—230	231—240	241 cm以上	計	漁獲尾數
いんど鮪	1	ニユー ジーランド	29—33S 154—178E	23	82 33.7	35 14.4	68 28.0	45 18.5	10 4.1	3 1.2									243 100	2370

魚種	測定船數	漁場	操業海域	操業回數	130 cm以下	131—140	141—150	151—160	161—170	171—180	181—190	191—200	201—210	211—220	221—230	231—240	241—250	251—260	261 cm以上	計	漁獲尾數
	5	0—20N 140—120W	0—12N 140—119W	168		5 4.2	11 9.3	6 5.1	22 18.6	15 12.7	8 6.8	15 12.7	7 5.9	14 11.9	6 5.1	3 2.5	2 1.7	1 0.8	3 2.5	118 100	766
く	4	0—15S 140—120W	1N—9S 141—121W	161			1 0.9	3 2.7	23 20.7	6 5.4	13 11.7	20 18.0	10 9.0	10 9.0	8 7.2	8 7.2	5 4.5	4 3.6		111 100	544
	6	30—40N 180—140W	30—39N 179—132W	160					1 1.0	1 1.0	4 4.1	11 11.2	34 34.7	17 17.3	13 13.3	10 10.2	5 5.1	1 1.0	1 1.0	98 100	224

ろ	1	20—30N 160—140W	28—32N 162—140W	31				1			2	1	6		1	1	1		1	14	73
								7.1			14.3	7.1	42.9		7.1	7.1	7.1		7.1	100	
	1	ハワイ南東 (5°N以北)	3—7N 154—137W	35				2	14	11	6		5	4	3	2	1	1		49	270
								4.1	28.6	22.4	12.2		10.2	8.2	6.1	4.1	2.0	2.0		100	
	3	ハワイ南東 (5°N以南)	1—7N 155—137W	94	1	2	10	14	34	33	24	15	10	4	8	3	2	1		161	739
					0.6	1.2	6.2	8.7	21.1	20.5	14.9	9.3	6.2	2.5	5.0	1.9	1.2	0.6		100	
	7	ハワイ南西 (5°N以北)	4—10N 175—156W	166	10	9	46	61	171	68	45	44	38	33	33	19	10	7	6	600	1805
					1.7	1.5	7.7	10.2	28.5	11.3	7.5	7.3	6.3	5.5	5.5	3.2	1.7	1.2	1.0	100	
	2	ハワイ南西 (5°N以南)	1—6N 173—168W	41	9	4	17	27	51	20	8	9	21	11	7		2	4	1	191	347
					4.7	2.1	8.9	14.1	26.7	10.5	4.2	4.7	11.0	5.8	3.7		1.0	2.1	0.5	100	
か	1	タ ヒ チ	17—21S 146—139W	38				1	6	11	7	11	4	2	3		1	2	1	49	385
								2.0	12.2	22.4	14.3	22.4	8.2	4.1	6.1		2.0	4.1	2.0	100	
	9	35—40N 150—180E	35—40N 154—168E	159	2	1					1	4	8	9	6	2	2	3	1	39	42
					5.1	2.6					2.6	10.3	20.5	23.1	15.4	5.1	5.1	7.7	2.6	100	
	1	30—35N 150—180E	31—36N 173—180E	23				1			2		6	5	4	1			1	20	21
								5.0			10.0		30.0	25.0	20.0	5.0			5.0	100	
わ	1	西部太平洋 (170°E以西)	26—31N 160—169E	26						2	3	6	8	10	3	5	3		5	45	88
										4.4	6.7	13.3	17.8	22.2	6.7	11.1	6.7		11.1	100	
	9	南洋南部 (170°E以東)	1—8N 165—180E	201	7	31	65	89	138	28	12	30	38	31	11	9	5	2	2	498	1536
					1.4	6.2	13.1	17.9	27.7	5.6	2.4	6.0	7.6	6.2	2.2	1.8	1.0	0.4	0.4	100	
	3	南洋南部 (170°E以西)	2—7N 133—163E	59	1	10	20	11	12	4	4	11	4	5	1	2	3		1	89	247
					1.1	11.2	22.5	12.4	13.5	4.5	4.5	12.4	4.5	5.6	1.1	2.2	3.4		1.1	100	
	2	ニューカレドニア	25—30S 153—158E	35										1		1	1			3	21
														33.3		33.3	33.3			100	

魚種	測定船數	漁場	操業海域	操業回數	130cm以下	131—140	141—150	151—160	161—170	171—180	181—190	191—200	201—210	211—220	221—230	231—240	241—250	251—260	261cm以上	計	漁獲尾數
し	3	0—20N 140—120W	0—12N 140—119W	104			1				1	1	2	1		1	1	1	4	13	36
							7.7				7.7	7.7	15.4	7.7		7.7	7.7	7.7	30.8	100	
	4	0—15S 140—120W	1N—9S 141—121W	161			1				1						3	1	2	8	48
							12.5				12.5						37.5	12.5	25.0	100	
ろ	3	30—40N 180—140W	30—34N 179—132W	84				1							1		1			3	3
								33.3							33.3		33.3			100	
	2	ハワイ南東 (5°N以南)	1—7N 155—137W	63					2	2									1	5	19
									40.0	40.0									20.0	100	

魚種	測定船數	漁場	操業海域	操業回數		100 cm 以下	101—110	111—120	121—130	131—140	141—150	151—160	161—170	171—180	181—190	191—200	201—210	211—220	221—230	231 cm 以上	計	漁獲尾數
かわ	6	ハワイ南西 (5°N以北)	4—10N 175—156W	135						1 8.3	1 8.3			1 8.3	1 8.3	2 16.7	1 8.3			5 41.7	12 100	15
	1	ハワイ南西 (5°N以南)	4—5N 173—169W	18														1 100			1 100	3
	4	南洋南部 (170°E以東)	2—8N 169—178E	89				1 25.0					1 25.0					1 25.0		1 25.0	4 100	14
	2	ニューカレドニア	25—30S 153—158E	35													1 33.3			2 66.7	3 100	11
	1	濠洲西方	14—18S 102—113E	27		2 1.8	4 3.5	20 17.7	18 15.9	13 11.5	23 20.4	8 7.1	7 6.2	9 8.0	1 0.9		3 2.7	2 1 8	3 2.7		113 100	194
まかじき	2	0—20N 140—120W	0—7N 140—119W	62	尾數 %							4 23.5	1 5.9	1 5.9	2 11.8	3 17.6	4 23.5	1 5.9		1 5.9	17 100	73
	4	0—15S 140—120W	1N—9S 141—121W	161									1 2.4	4 9.8	2 4.9	14 34.1	13 31.7	4 9.8		3 7.3	41 100	185
	7	30—40N 180—140W	30—39N 179—132W	187				2 0.9	30 13.0	89 38.5	29 12.6	25 10.8	4 1.7	16 6.9	30 13.0	4 1.7		2 0.9			231 100	562
	1	20—30N 160—140W	28—32N 162—140W	31					6 22.2	18 66.7	1 3.7	1 3.7	1 3.7								27 100	155
	2	ハワイ南東 (5°N以南)	1—7N 155—137W	57											3 21.4	4 28.6	2 14.3	4 28.6		1 7.1	14 100	20
	4	ハワイ南西 (5°N以北)	4—10N 175—159W	95					6 20.0	21 70.0	1 3.3					2 6.7					30 100	31
	1	タヒチ	17—21S 146—139W	38												2 25.0	3 37.5	1 12.5		2 25.0	8 100	53
	10	35—40N 150—180E	35—40N 154—168E	180						34 10.6	51 15.9	111 34.6	30 9.3	50 15.6	37 11.5	8 2.5					321 100	574
	1	30—35N 150—180E	31—36N 173—180E	23						3 21.4	4 28.6	5 35.7	1 7.1	1 7.1							14 100	20
	2	西部太平洋 (170°E以西)	26—31N 143—169E	41				2 2.8	7 9.9	33 46.5	21 29.6	3 4.2		4 5.6	1 1.4						71 100	224
	1	南洋南部 (170°E以東)	4—8N 169—172E	23				1 50.0	1 50.0												2 100	2

魚種	測定船數	漁場	操業海域	操業回數		80cm以下	81—90	91—100	101—110	111—120	121—130	131—140	141—150	151—160	161—170	171—180	181—190	191—200	201cm以上	計	漁獲尾數
	2	ニューカレドニア	25—30S 153—158E	35									1 1.2	4 4.7	20 23.5	45 52.9	14 16.5		1 1.2	85 100	200
めかじき	1	0—20N 140—120W	3—7N 127—119W	27	尾數 %							1 11.1	1 11.1		2 22.2	1 11.1	2 22.2	1 11.1	1 11.1	9 100	13
	1	0—15S 140—120W	3—9S 141—121W	51									2 66.7	1 33.3						3 100	13
	5	30—40N 180—140W	30—39N 179—132W	133		1 5.3	1 5.3	2 10.5	2 10.5	4 21.1	2 10.5	1 5.3	2 10.5		1 5.3	2 10.5		1 5.3		19 100	19
	6	ハワイ南西 (5°N以北)	4—10N 178—159W	141		3 17.6	1 5.9		1 5.9	1 5.9	2 11.8	2 11.8	1 5.9		2 11.8	2 11.8	1 5.9		1 5.9	17 100	24
	8	35—40N 150—180E	35—40N 154—168E	140				2 6.9		3 10.3	4 13.8	8 27.6	7 24.1	4 14.8	1 3.4					29 100	29
	1	30—35N 150—180E	31—36N 173—180E	23					2 40.0	1 20.0		1 20.0			1 20.0					5 100	6
	1	西部太平洋 (170°E以西)	27—28N 143—145E	15						2 50.0	1 25.0	1 25.0								4 100	4
	6	南洋南部 (170°E以東)	2—8N 165—178E	124				2 10.5	1 5.3	2 10.5	3 15.8	4 21.1	3 15.8	2 10.5	2 10.5					19 100	[illegible]
	2	南洋南部 (170°E以西)	2—7N 160—163E	28		6 54.5		1 9.1		1 9.1	2 18.2	1 9.1								11 100	11

セレベス東岸航行禁止區域設定ニツイテ

（才三管区海上保安本部　昭和33年4月5日）

セレベス東岸、レンベー海峡及附近ノ左記区域海面ハ、インドネシヤ当局ニヨリ機雷敷設ノタメ航行ヲ禁止サレタ。

1. 区　域

下記ノ四地点ヲ順次連結スル線及陸岸ニヨリ圍マレタル区域内海面

イ、	北緯	1度18分	東経	125度4分
ロ、	〃	1度19分30秒	〃	125度20分
ハ、	〃	1度37分30秒	〃	125度20分
ニ、	〃	1度37分30秒	〃	125度8分30秒

2. 海　圖

676 及 674

鋼木船造修一般
500噸船台三基
起重機10噸・5噸各一基

三崎船舶工業株式会社
神奈川県三浦市三崎港
（電話 三浦 2934・2880番）

大西洋産カジキ2種について

会　員　　中　込　　淳

昭和31年の暮以降，大西洋で操業する我が国のマグロ延縄漁船が多くなったが，各漁船の漁獲する，カジキの漁況を整理発表するのに，特に，「これらの漁船がクロカワ，マカジキと呼んでいるのでそのまま整理したが，これが太平洋，印度洋のクロカワ，マカジキと同一種のものであるか否かは未だ疑問である．」(漁鮪業44，P．8）とことわってそのままクロカワ，マカジキの名前を用いて発表して来た．

その後，パシフィック，フィシャーマン誌の日本駐在員酒井謙二氏より，アメリカでは大西洋のクロカワ，マカジキが太平洋，印度洋のクロカワ，マカジキと別亜種であると考えられている旨報告があったが，この程，アメリカのマイアミ大学海洋研究所の John K. Howard 博士から鮪漁業研究会及び神奈川県水産試験場宛にこれら2種のカジキの名前について，次の様な意見がもたらされた．（書翰原文別掲参照）

会誌“鮪漁業”に載っている相模丸の報告で，大西洋の2種のカジキがクロカワ，マカジキと呼ばれており，その後発表された若生光一相模丸船長の報告では，大西洋で漁獲され，マカジキと呼ばれているカジキは，太平洋，印度洋のカジキと同じものであるかどうか疑わしい，と報告されているので，ここに，私の意見を書いた手紙をさし上げます．

アメリカの魚類学者が Kajikia mitsukurii とか Makaira mitsukurii と呼んでいるマカジキが大西洋で漁獲されたという報告を私はみたことがありません．それで，私はマカジキは大西洋には棲息していないと信じています．

アメリカの魚類学者によってEumakaira nigra とか Makaira mazara と呼ばれているクロカワは大西洋には棲息していないと考えられています．又，大西洋のブルー・マーリン Blue marlin (Makaira ampla) はクロカワと異っていると考えられています．これらについては，William F. Royce 博士 L. Rivas 教授 James E. Morrow 博士等が研究し，（前2者の報告は既にその結果を発表され，後者も間もなく発表されます）そして，Morrow 博士は Blue marlim とクロカワは別亜種であると言っています．

大西洋で漁獲される小さなカジキは一般にホワイト・マーリン White marlin と呼ばれており，太平洋，印度洋で漁獲されたことはありません．会誌“鮪漁業”に発表されているマカジキは，この White marlin のことと思います．この両カジキは全く異ったカジキであり，従って，White marlin はマカジキと呼ぶべきではないと思います．

私は，鮪漁業研究会と神奈川県水産試験場が，大西洋と太平洋，印度洋の両カジキを調査された南海区水研中村広司博士や，その他の日本の魚類学者に，大西洋のカジキを研究し，太平洋，印度洋のカジキと比較研究するように，すすめることを希望します．

この文中にあるように，神奈川県水試若生相模丸船長も「大西洋のマカジキは非常に小さく，太平洋，印度洋のマカジキと同種であるかどうか疑わしかった」と報告している．（鮪漁業47，P.20）

そこで，昨年，東光丸で大西洋に調査におもむいた南海区水研遠洋資源部に問い合わせたところ，上村，上柳技官より次のような解答があった．

即ち，「大西洋のクロカワは太平洋のものとよく似ているが多少扁平の感じである．分類上の位置についてのくわしいことは分らないが亜種程度の違いはあるかもしれません．又，大西洋のマカジキは太平洋のマカジキと相当異り，外表はフウライカジキに似ており，生殖腺もY字型でフウライカジキに似ていて綜合的にはやはりマカジキに最も近い感じを受けた．太平洋，印度洋のマカジキとは少くとも，亜種以上の違いのように思われる．いずれ，大西，太平，印度洋の全カジキ類の分類の再検討を行う予定でいる．」

以上のことから，大西洋のクロカワ，マカジキが太平洋，印度洋のクロカワ，マカジキと別亜種であることは略確定的である．しかし，大西洋産のクロカワ，マカジキに正しい名前をつけることは，その魚種をよく研究した上

でなくては難しいし，現在業者間ではクロカワ，マカジキという名前が通用しているので神奈川県水産試験場，南海区水産研究所では，今カジキ類の分類の再検討があるまでは当分，大西洋産クロカワ，大西洋産マカジキと呼称することにしている．

March 28,1958 No.8843

Kanagawa Prefectural Fisheries
Experiment Station
Misaki-machi
Miura-shi
Kanagawa-ken, Japan

Dear Sirs:

I have notd in recent numbers of "Tuna Fishing" published by The Investigative Society of Tuna Fishery papers on Japanese long-line fishing in the Atlantic by your experimental vessel, the "Sagami Maru", for instance No. 42, 1957, pp. 21-26, and No. 47, 1958, pp. 19-20. In these papers two Atlantic marlins are reported and called Kurokawa and Makajiki (respeetively the Eumakaira nigra and Kajikia Mitsukurii of "The Tunas and their Fisheries" by Hiroshi Nakamura, published by Takeuchi Shobo, Tokyo, 1949).

I also note in the paper by Captain Koichi Wakao in No. 47, 1958, that he raised the question whether the marlin caught in the Atlantic and called Makajiki were the same species as the Makajiki caught in the Pacific and Indian Oceans. This query leads me to write this letter.

The Makajiki (Kajikia Mitsukurii or Makaira mitsukurii as more often used by American ichthyologists) has never been reported as occurring in the Atlantic in the scientific, fisheries, or other literature. I believe it does not exist in the Atlantic.

The Kurokawa (Eumakaira nigra or Makaira mazara as more often used by American ichthyologists in the past) was not thought to exist in the Atlantic until recently. The larger marlin of the Atlantic, the "Blue Marlin" (Makaira ampla) was thought to be a different fish than the Kurokawa. In 1956 Professor L. Rivas of this University published "The Occurrence and Taxonomic Relationships of the Blue Marlin (Makaira ampla Poey) in the Pacific Ocean" and Dr. William F. Royce of the Pacific Ocean Fisheries Investigation (POFI) of U.S. Fish and Wildlife Service published "Observations on the Spearfishes of the Central Pacific", Fisheries Bulletin 124, Fish and Wildlife Service, 1957. Both of these authors placed the Blue Marlin, formerly thought to exist only in the Atlantic, in the Pacific and believed it to be Kurokawa (see pp. 69 and 70 of Rivas and p. 532 Royce). Royce's work was done in 1955 and prior thereto.

Since the work of these two ichthyologists, Dr. James E. Morrow of the Bingham Oceanographic Laboratory of Yale University has studied the pectoral girdles, pectoral fins and their articulation of these two fish. He has found a constant difference in them between the two marlins and feels that they should be considered two sub-species. I understand that his paper on this will be published shortly. Certainly until his paper is published it is proper to call these fish when caught by the Japanese in the Atlantic Kurokawa or Kurokajiki, which latter I nnderstand is another Japanese common name for them. It seems to me, however, that if any common name is printed in English in Japanese publications "Black Marlin" should not

be used, as this Atlantic marlin has had an English common name attached to it for years, "Blue Marlin". It seems to me that" Blue Marlins" should be printed under such circumsatnces.

The smaller marlin caught in the Atlantic was named albida by Poey in 1860. The English common name used for it for years has been "White Marlin". It never has been caught in the Pacific or Indian Ocean to my knowledge. Undoubtedy, it is that marlin which is being called Makajiki in the papers being published in "Tuna Fishing". I suggest that it should not be called Makajiki because that marlin, I believe, is an entirely different marlin.

I know that Dr. Hiroshi Nakamura to the Nankai Regional Fisheries Research Laboratory on his expedition to the Atlantic caught both the Blue Marlin and White Marlin and has studied them. He is, of course, very familiar with your Kurokawa and Makajiki. I have not heard what he thinks of the two Atlantic marlin, but I would guess that hc has found that the White Marlin is different from any of yonr Indo-Pacific marlin and is not known to exist in those two oceans. Whether he has found the same difference as Morrow between the Kurokawa and the Atlantic Blue Marlin, I do not know as yet. I suggest that your organization and the Investigative Society of Tuna Fishery eheck with him or some other Japanese ichthyologist who has studied the two Atlantic marlins and compared them with those of the Indo-Pacific.

Yours sincerely,
John K. Howard

—訳　　文—

昭和33年3月28日

神奈川県三浦市三崎町神奈川県水試内

鮪漁業研究会殿

アメリカ合衆国フロリダ州マイアミ

マイアミ大学海洋研究所　　ジョン．ケイ．ホァード

拝啓

私は鮪漁業研究会によって発行された'鮪漁業'の最近号（42〜46号）の中で貴方の試験船相模丸によって行われた大西洋に於ける日本鮪延縄漁業についての報告を見ました．これらの報告の中で二つの大西洋のカジキが竹内書房発行の中村広司によって著述された「鮪とその漁業」で用いているクロカワ Eumakaira nigra，マカジキKajikia mitsukurii という名で呼ばれ報告されています．

私は又47号の鮪漁業の若生光一船長の報告の中で彼が大西洋で漁獲されてマカジキと呼ばれているカジキが太平洋や印度洋で漁獲されたマカジキと同じ種類であるかどうか疑わしいという疑問を揚げているのを見ました．この疑問が私にこの手紙を書かせたのであります．

アメリカの魚類学者によって Kajikia mitsukurii とか Makaira mitsukurii と呼ばれているマカジキが科学的にも漁業上でも又他の文献でも大西洋で発見されたという報告を見たことはありません．私はマカジキは大西洋に棲息していないと信じます．

アメリカの魚類学者によってしばしば Eumakaira nigra とか Makaira Mazara と呼ばれたクロカワは最近まで大西洋に棲息しているとは考えられませんでした．大西洋に於ける大きなカジキ Blue marlin (Makaira ampla) はクロカワと異っていると考えられました．1956年に私の大学の L.Rivas 教授が「太平洋に於ける Blue Marlin の発生学的分類学的関係」という書を著し又アメリカ太平洋魚獣局の William F. Royce 博士が1957年に魚獣局水産報告124号で「中部太平洋のカジキについての観察」という報告を発表しました．Blue marlinを調べたこれら著者の二人は Blue marlin は大西洋にのみ棲息すると考え太平洋のそれはクロカワであると信じています．又，1955年になされた Roycc の仕事は更に立派なものです．

その後エール大学ビンハム海洋研究所の James E. Morow 博士はこれら二つのカジキ（クロカワとBlue marlin）の胸のしまや胸鰭や関節の研究を行い彼は二つのカジキの間の一定の差を発見しこれら二つのカジキは二つの亜種に決定すべきであると考えた．彼はこの報告を近日中に発表する筈であります．確かに彼の報告が発表されるまではこれらの魚が日本人によって大西洋で漁獲された時クロカワ又はクロカジキと呼ぶのが適当であり，私は後者が一般的な日本名であると了解しています．

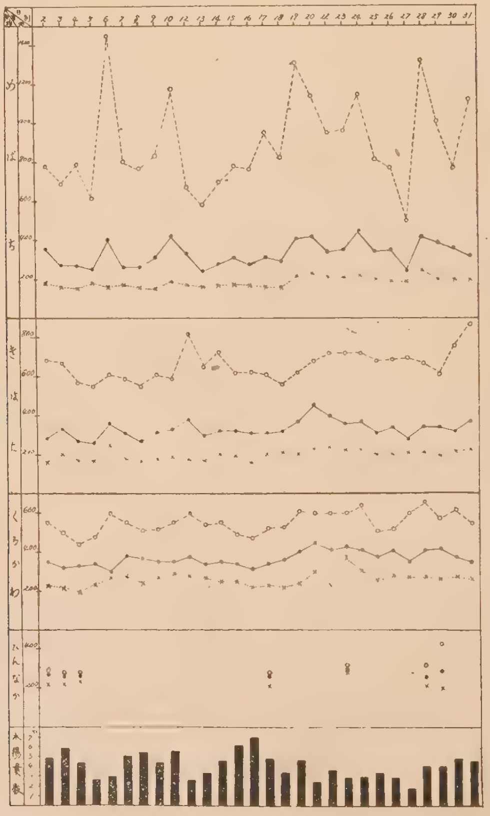
しかしながら私はもし日本語の発行物の中で英語で記す時には一般的な名前として Black marlin は使用すべきではないと思います．それはこの大西洋のカジキについて永い間使用されて来た Blue marlin という一般的な英名があるのですから． Blue marlin という文字はかような条件のものに使用されるべきであると思う．

大西洋で漁獲された小さなカジキは 1860 年に Poey によって Albida と名付けられている．このカジキの永い間使用されて来た一般的な英名は White marlin です．そのカジキは私の知っている限りでは太平洋や印度洋で漁獲されたことはありません．疑いもなくこのカジキは「鮪漁業」に発表された報告の中でマカジキと呼ばれているカジキです．私はそのカジキをマカジキと呼ぶべきでないことを提議します．何故ならば私は両カジキが全く異ったカジキであると信じているからです．

私は南海区水研の中村広司博士が大西洋を調査した時 Blne marlin とWhite Marlin を漁獲しそれらについて研究したことを知っています．彼は勿論クロカワやマカジキを非常によく知っています．私は彼が大西洋のカジキについてどう考えているか未だ聞いていません．しかし彼が White marlin が太平洋や印度洋のカジキと異り，太平洋や印度洋に棲息しないことを発見すると思っています．私は彼がクロカワと大西洋のBlne marlin の間の差について Morrow と同じ差を発見するかどうか未だ知りません．私はあなたの機関と鮪漁業研究会とが彼又は他の日本の魚類学者に彼等に大西洋のカジキを研究し印度洋太平洋のカジキと比較するようにうながされんことを提議します．

敬具

（神奈川水試調査部　技師）

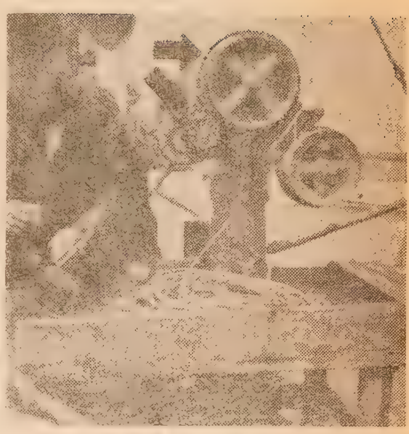


鮪類水揚価格表（三崎）昭和三十三年三月

－新漁具紹介－

丸石式ゴムローラー

会　員　池 田 義 明


矢印の部分が丸石式ゴムローラー
小さなモツレが捲かれる瞬間この場合もスリツプはしない

丸石式ゴムローラーといってもこれは従来のラインホーラー（揚縄機）の縄押ローラーが真鍮製で，縄の結目等が来た場合はずれることが多いので，特殊合成ゴム製のこのゴムローラーの使用によって，縄の押力を縄の表面に広く均等にかからせて，縄の結び目等の部分をスムースに捲きとらせ，はずれることを減少させようとするものである．目下実用新案特許申請中

神奈川県水試調査船江の島丸（40屯120馬力）での実用化試験報告は次の通りである．

1．試験期間及び使用回数

昭和33年3月6日より3月31日まで試験操業4回　1回平均65鉢使用

1．漁　　場　　　伊豆諸島周辺

1．使用ラインホーラー規格　　4 号型

1．試験状況

イ．特殊合成ゴム製ゴムローラー（押え車）とゴム輪（主捲揚車にとりつける）を使用してあるため揚縄時幹縄がゴム輪と押え車の間を通る時の押える力は縄表面に広く平均的にかかりスリップが少いため摩擦が少く特に幹縄の結び目スプライス部分が通過する時はスリップ摩擦が少いためスムースに揚縄出来た．

ロ．操業中瀬の上に置き忘られていたブイロープ（綿糸10匁タール染古縄二本合）と本船の延縄とが引っかかったのでゴムローラーの性能と鮪延縄（ミューロンロープ湿時抗張力255kg）の性能試験の意味でラインホーラーの揚揚能力を最大限に発揮して試験を行ったところブイロープが切断されて無事揚縄出来たがこの間ゴムローラーは1回もスリップせず縄のコイルが少し小さくなるだけで約200kgの張力の使用に耐えたと考えられる．

1．試験成績

従来の砲金制ローラーの使用に比べ幹縄のスリップ，摩擦，幹縄のラインホーラーからのはずれが少いため，揚縄所要時間の短縮，ロープの耐用年数の増大，幹縄の切断回数の減少等に依る船員労働の危険性，労働力の軽減等の長所が認められた．　　（神奈川水試漁撈部　技師）

遂に出た画期的性能を誇る!!

Ⓡ式ゴムローラ

実用新案特許出願中

特徴
○ 縄の摩耗皆無にて、擦傷等の心配はありません
○ 揚縄所要時間の短縮
○ 揚縄中にも縄外れ等は皆無です
○ 縄のもつれの場合でも気持良く代ります
○ 本製品は特殊合成ゴム使用の為、耐油性・耐摩耗性にて耐久力が有ります
○ コムローラ御使用になりますとゴム輪・滑車等の摩耗の防止になります

神奈川県三崎港魚市場前

丸石商店

TEL（三浦）2923

業 界 メ モ

1958年3月～4月

3月13日 第15東丸南米へ

大洋漁業KK第15東丸（343.45トン）はこの程横須賀から南米へ向ったが同船は南米を基地として二年間のマグロ漁業の長期操業を行う予定 （港報）

3月28日 伊太利向輸出枠 1万5千トン

全国冷凍輸出組合では総会を開いてこのほどイタリアのマグロ業界から申入れのあった年間1万トンの輸出枠について検討したが結論としては現地の状況をもっと調査してから最終的判断を下すこととし現在としては1万5千トンの枠ですすめてゆくことになった. （日本水産）

3月31日 インド洋のキハダ漁好調

東海大学水産研究部では印度洋からベンガル湾に北上するキハダ洄游群により前年度と同様にベンガル湾へ指向する漁場が盛漁期に入ったと発表した. 新漁場はセイロン島東側北緯 4～7 度東径80～90度の水温29～29.5度Cの北赤道流の突出部で各船とも 1日平均1.000～1.500貫の漁，この魚群は表層をハネ群をなして洄游しているのが特徴で移動が速く漁場は次第にベンガル湾中心部に向っているという，盛漁期は4.5.6月と続き漁獲も増し250～400トン級漁船の好漁場となるものと予報している.

（日本水産）

4月3日 鮪の鮮度保持にスピードアツプで成功

丸高水産KK新造船第15丸高丸(441トン1050馬力)は昨年10月3日処女航海の途につきこの程2航海目を終え三崎に水揚したが氷蔵物5万貫のバチ，キハダとも平均相場は他船ものに比べ貫当り 100円の開きが出て関係者を驚かせた. これは鮮度が他船に比べグンと良かったことが原因だがこの鮮度保持のため同船は1050馬力の主機を装備しエンジン部に重点を置き航速力のスピードアップで鮮度保持に成功したもので鮪漁船の在り方の新らしいケースとして注目されている. （港報）

4月12日 第5住吉丸カリブ海に出漁

住吉漁業KK第5住吉丸 （462トン）は12日三崎を出港カリブ海に向ったが同船はハバナを基地に4航海マグロ約30万貫を水揚，操業しながら帰途につき来年8月三崎に帰港する. 同漁場には第12，第28住吉丸第18海王丸などが活躍している （港報）

4月18日 サモア基地のマグロ漁初出漁以来の好況

サモア基地操業を行っている神奈川県鰹鮪漁協組所属船から昭和30年初出漁以来の好漁に恵まれていると入電があり，関係者を喜ばせている. 連絡によるとサモア漁場ではビンチョウが大漁で13隻の同組合所属船は毎航海満船の操業ぶりでしかも魚価が貫当り 375円の高値をみせているのでいづれもホクホクだという. （港報）

4月21日 相模丸南下続航中

4月2日三崎を出港 東部太平洋の新漁場調査に向った神奈川水試遠洋指導船相模丸 （700トン）はウエーキ島通過後連日向風強く予定よりおくれて20日ハワイ南沖通過，強行南下続航中，日中の気温27度，天候晴の連絡があった. （港報）

4月28日 クリスマス島水爆実験危険区域

水産庁生産部では英国政府が4月26日以降次の区域が核実験のため危険となる旨発表したので関係漁業者に周知徹底の上危険防止に万全を期せられたいと各方面に通知を発した.

赤道及び北緯3度30分の緯線と西経 156 度00分及び西経 159 度00分の経線に囲まれたる区域

（水産庁通報）

本會の圖書誌の分讓其の他について

◎ 本会發行の圖書誌を分讓致しておりますから御申込下さい。

會　　誌　「鮪 漁 業」　才 6—49 号（才1—5号品切）｛才6—28各100円 郵送料16円 才29—49号各150円

鮪類水揚地調査報告（自昭和 27 年 5 月　至昭和 28 年 4 月）

1 部　300円　（B 5 判 150 頁）　郵送料　24円

鮪類水揚地調査報告（自昭和 28 年 5 月　至昭和 29 年 3 月）

1 部　400円　（B 5 判 226 頁）　郵送料　40円

鮪類水揚地調査報告（自昭和 29 年 4 月　至昭和 30 年 3 月）

1 部　300円　（送料を含む）（B 5 判 126 頁）

◇ 上記の昭和28年度、29年度、30年度分 3 册一括購入の場合 特價 800 円（送料共）

鮪 漁 船 操 業 圖　（航走距離早見表、鮪類年令対体長体重表刷込）

1 枚　50円　郵送料　8円

鮪　漁　場　図　（32 海區割に表示したもの）

10 枚　100円　郵送料　16円

◎会員各位の鮪漁業に関する調査や研究或は体驗、漁具漁法の改良、遭難防止等についての投稿其の他寫眞を御願いします。

◎本会に入会を希望される方は住所、氏名、職業、会誌の送り先を記入の上年間会費 1500 円（他に会誌送料 200 円）を添えて研究会宛御申込下さい。

◎本誌に廣告掲載希望の方は、本会伊藤專務理事迄御申込下さい。

—— お　願　い ——

◎大變恐縮ですが昭和32年分會費（1.700円）未納の方は本會宛至急拂込送金方（振替貯金口座横浜 1472）お願い致します。尙整理の都合もあり會費切れの向には一時會誌の送本を中止することに致しますからお含み願いあげます。

鮪　漁　業

1958年5月号

昭 和 33 年 5 月 10 日 印 刷
昭 和 33 年 5 月 10 日 發 行
監　　修　神奈川縣水産試驗場調査部
編集兼發行人　菅　野　進
神奈川縣三浦市　神奈川県水産試驗場内
發 行 所　鮪 漁 業 研 究 会

営　業　種　目

船　舶・陸　上

冷凍・冷蔵・製氷・冷房

冷凍・冷蔵・製氷工場
急速・空氣凍結装置
冷房装置・冷凍機械器具
防熱装置・船舶冷凍冷蔵
設計　製作　施工

協同低温工業株式会社

本　社　東京都千代田区神田佐久間町河岸58（夏目ビル2階）
電話　東京（866）0996・0997番

漁船の氷、餌料の仕込は

三崎漁連へ　砕氷設備毎時50屯2基完備

（向ヶ崎・花暮岸壁）

凍結能力　日産　一七屯 ——— 冷蔵収容量　六〇〇屯
製氷能力　日産　五〇屯 ——— 貯氷能力　五五〇屯

三崎漁業協同組合連合会（製氷冷凍工場）

会長　寺本正一

神奈川県三浦市三崎港　TEL（三浦）2609・2655番

◇新時代の冷凍機◇

（高速多気筒）

ダイヤ冷凍機

（新三菱重工製）

漁船船舶冷凍装置・製氷冷蔵凍結施設

設計・製作・施工

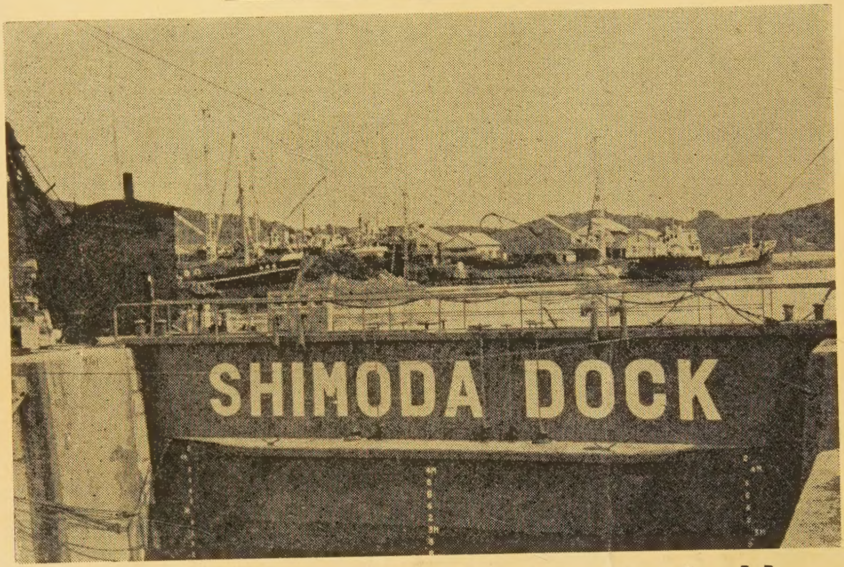
株式会社 **東洋製作所**

本社・工場　東京都品川区東品川5の61
電話大崎（49）代表2171―9番（49）2170.6004番 営業部直通
営業所　大阪市北区梅田町47（新阪神ビル）
電話（36）代表0974―5（36）2171―9（内線350―1）

800屯ドライドック完成

船渠	大きさ	長さ	幅	深さ	
		59.15 米	14.0 米	6.6 米	
	入渠可能船舶	長さ(垂線間)	幅(型)	吃水(平均 汐高線 1.7米に於て)	総屯数
		57.0 米	11.0 米	4.41 米	800 屯

船台兼船架	建造又は上架可能船舶	構造	長さ	総屯数	数量
		4条軌条算盤式	50 米	500 屯	2
		2条軌条式	50 米	250 屯	2



下田船渠株式会社

静岡県下田港　本社事務所　電話下田 1001(代表)〜3番　本社現場事務所　電話下田1005(代表)〜6番
武ヶ浜工場　電話下田 1008(代表)〜9番
東京事務所　東京都港区芝田村町 4—13　電話 芝 (43) 2539・8655番

紫綬褒章に輝やく
泉井式ラインホーラー

株式會社　泉井鉄工所
高知県室戸町

鮪漁業 第四十九号 昭和三十三年五月十日発行 (毎月一回十日発行)
昭和三十一年二月二十三日 第三種郵便物認可